

応募機関名： _____

平成 23 年度低コスト・低負荷型土壌汚染調査対策技術検討調査
実証試験計画書様式

1) 技術の概要

①	技術の名称：															
②	技術の内容：（具体的な製品像、製品の用途、核となる技術上のポイントとその原理を、概念図等を使いわかりやすく 3 頁以内にまとめること。文献の引用等のその他必要な説明資料は別添とすること。）															
③	<p>特徴：</p> <p><新規性・優位性>（従来技術に対して提案技術の革新性、優れている点、狙い等を記入）</p> <p><安全性・確実性>（安全で周辺環境影響のない技術であることの根拠及び本実証試験でどのようにその安全性・確実性を証明していくかなどを記入）</p> <p><コストおよび二酸化炭素排出量>（低コスト化、低 CO₂ 化できる理由も記入）</p> <p style="text-align: center;">表 従来技術とのコストおよび二酸化炭素排出量の比較</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">項目</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">本技術 ()</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">従来技術 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処理量 [t or m³]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>対策（調査）期間 [月]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コスト（直接工事費） [円/ t or m³]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素排出量 [kg/t or m³]</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	本技術 ()	従来技術 ()	処理量 [t or m ³]			対策（調査）期間 [月]			コスト（直接工事費） [円/ t or m ³]			二酸化炭素排出量 [kg/t or m ³]		
項目	本技術 ()	従来技術 ()														
処理量 [t or m ³]																
対策（調査）期間 [月]																
コスト（直接工事費） [円/ t or m ³]																
二酸化炭素排出量 [kg/t or m ³]																

<実処理における経済的最適規模>（コスト的に最適な規模とそれに付随する条件について記入）

<類似技術の動向、想定される市場の動向>（類似技術と比較した場合の優位性や今後の市場動向について記入）

<事業展開における目標、事業の見通しと波及効果>（実証事業後の事業展開に関する年次目標を表形式等により記入）

<その他の特徴>

2) 実証試験年次計画（複数年契約を希望する場合のみ記入）

① 複数年調査の目的と内容：
 <年次計画>（本実証調査内容を区分し、年次ごとの内容、課題、達成目標（主に数値指標）について表形式等により、3頁以内でまとめること（下表はイメージ）。なお、対象技術の最終目標を記入するとともに、本実証事業の達成度の評価方法を記入すること。また、現状から事業化に至るまでのステップにおける本実証調査の位置付けがわかるようにすること。）

表 年次計画（イメージ）

実証項目	1年目	2年目	3年目	実証終了後
1. ○○○○				
(1) 土壌含有量 土壌溶出量				
(2) 処理コスト				
(3) 環境への負荷				
2. △△△△				
(1) 土壌含有量 土壌溶出量				
(2) 処理コスト				
(3) 環境への負荷				

3) 本年度の実証試験計画

① 本年度調査の目的と内容：
 1) 調査の目的と調査内容（安全性、確実性があり、より低コスト化、低負荷化を実証するための調査内容等を記入）

2) 実証調査における本年度の目標と評価方法
 （実証調査における本年度の目標と評価方法について記入（下表は一例））

表 実証調査における技術目標と評価方法（例）

項目	目的	目標値	評価
土壌含有量 (〇〇、〇〇) 土壌溶出量 (〇〇、〇〇)	土壌中からの有害物質 (〇〇、〇〇)の除去の 評価	土壌含有量基準以下 土壌溶出量基準以下	実証調査における公 定法分析結果を基に 評価
処理コスト	低コスト性を評価	〇〇円／t以下 (〇〇%削減)	実証調査データを基 に評価、また従来技 術との比較評価
環境への負荷	燃料・電気使用等による 二酸化炭素排出量の削減 を評価	〇〇kg-CO2／t以下 (〇〇%削減)	実証調査データを基 に評価、また従来技 術との比較評価
	周辺環境に対する低負荷 性を評価	排ガス濃度：〇〇以下 排水濃度：〇〇以下 騒音：〇〇以下 振動：〇〇以下 その他：〇〇	実証調査における公 定法分析結果を基に 評価

- ② 実証試験施設（装置）の概要：（フロー図等を掲載し、概要を1頁以内にまとめること。装置写真等のその他説明に必要な図面類がある場合は添付資料とすること。）

図 フロー図等

- 測定項目（調査技術の場合定量下限値も）
- 電力使用量（定常時消費電力 kW/t or m³）
- 使用水量（m³/t or m³）
- 燃料（種類・量）
- 薬品（種類・量）
- 装置の規格（サイズ：H×W×L）
- 装置の専有面積(m²)
- 装置の重量(t or kg)
- 装置機械の設置搬入の簡便性・装置の可搬性

③	<p>実証試験場所：（実証場所及びその住所（差支えない範囲で）、実証場所と周辺の状況を記入すること。対策技術の原位置浄化、調査技術の場合、現地の概要が分かる図も添付すること。）</p>
④	<p>試料土壌の性状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○汚染物質 ○汚染濃度 ○土質 ○汚染の由来
⑤	<p>実証試験方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実証試験条件 <ul style="list-style-type: none"> （対策技術：時間あたり土壌処理量・総土壌処理量・温度条件等、試験条件をケース毎に記入） （調査技術：調査条件をケース毎に記入）

○モニタリング計画

(測定対象(排ガス、排水(地下水)、汚染土、処理土、廃棄物、周辺環境、作業環境等)、サンプリングポイントは図示し、その分析項目・分析方法・分析頻度(時期)等は一欄表とする等わかりやすく記入すること。対策技術(浄化)においては、対象物質の収支を確認できるモニタリング計画とすること。)

	<p>○安全対策 （作業環境及び周辺環境対策、試料土壌の運搬方法、トラブル発生時の対応方法及び連絡体制等を記入）</p> <p>○排出物の処理・処分方法 （実証試験により発生する浄化土壌・排出物（廃棄物）等に対する処理・処分方法等を記入）</p> <p>○その他 （コンタミネーションの無いことの確認方法、汚染土壌が装置内に堆積・滞留しない構造であることの説明等、必要に応じて記入）</p>
⑥	<p>実証試験工程：（本年度の実証予定を工程表として示す。契約 4 月中、実証 5 月～、結果提出平成 24 年 1 月の見込みで、実証試験内容の工程毎に所要期間を記入）</p>
⑦	<p>実施体制： （実証試験の実施体制を図示する。主たる担当者については担当者名、連絡先を記入）</p> <p style="text-align: center;">図 実施体制</p>

(注)

1. 必要に応じ、関連資料を添付して下さい。
2. 適宜枠を拡大し、ページ数を増やしていただいてもかまいません。